

# 大阪なおみの THE JAPAN TIMES を読んでみよう

2018年9月30日 中道 和也

「この試合は見たかった！」と、思っている人は案外多いでしょう。WOW-WOW 専属放送の大阪なおみとセリーナ・ウィリアムズの決勝戦（全米オープンテニス女子）です。9月11日（火）の日本語の新聞の朝刊1面で「大阪なおみ・全米・セリーナを破る・優勝」が躍っています。日本語の新聞では満足できない。こんな世界的な場面を英語ではどのように表現するのだろうか、THE JAPAN TIMES の記事（SEPTEMBER 11, 2018）を読みたくくなります。トップページの2/3を白いオシャレの服に身を包んだ大阪なおみがチャンピオン トロフィーを両手で、右の胸元に掲げた写真と記事が堂々と、ど真ん中に載っています。英語—日本語の辞書をひっきりなしにひきながら、THE JAPAN TIMES の英文を、たどたどしく翻訳していきました。この記事には、工夫がいっぱい。まず、見出し（Head Line）は、「Date tips…伊達選手は内内で情報を知らせる」として始まります。記事の始まりは、伊達選手の言葉で1/3の紙面を占めています。大阪なおみ選手の言葉も1/3です。記事の終わりは、また、伊達選手の12行の言葉で締めています。このような書き方の日本の新聞はなかった。伊達公子選手と大阪なおみ選手の言葉の英語のニュアンスを伝えるために記事を引用します。

Head Line: Date tips Osaka as future No.1

伊達選手は、大阪選手は将来 No.1 になるよ。と内内にそっと知らせる。伊達選手は、大阪選手の潜在能力を見抜いている、その感性をうまく表現している見出しです。これだけで、大阪なおみ選手のすべてを表現しています。

この Head Line には2つの特徴があります。

1つ目は、この記事全体の主役は伊達公子の言葉なのです。ですから、Head Line の書き出しも Date なのです。他の新聞の主役は大阪なおみが主体ですけれど。

2つ目は、いきなり future なのです。そして No.1 ときます。他の新聞はセリーナに勝った。優勝。日本人で初めて。の書き出しなのに。ね！工夫されていますでしょう。他の新聞と違うでしょう。

Contents:

After becoming a Grand Slam champion, Nomi Osaka can follow her historic U.S. Open triumph by becoming the first Japanese player to reach No.1 in world, predicts former Japanese great Kimiko Date.

グランドスラム チャンピオンになった後、大阪なおみ選手は歴史的な U.S. Open の大手柄を契機として、世界で No.1 になる最初の日本人選手になっていくことができると、以前に偉大な業績を成し遂げた伊達公子選手は予言して

います。

ここでは、tips と predicts の使い分けをしています。見出しの tips には、一番大切なことを、そっと伝えるね！と印象つけています。インパクトがあります。伊達公子選手の予言する、という言葉は文章の最後に持ってきています。この書き方は、うしろに続く文章でも一貫しています。

Though Osaka's moment of glory was overshadowed by Serena William's meltdown during her stunning 6-2,6-4 upset of her idol on Saturday ,the 20-year-old demonstrated she has the game, and the grit, of to be a serial winner, according to Date.

土曜日の試合のことですが、大阪なおみ選手が、憧れだったセリーナ ウィリアム選手をすばらしい成績で、第1セット6-2、第2セットの1-3から逆転した勝ちした6-4での試合中から続いているセリーナ選手のメルトダウンによって、栄光のこの瞬間を曇らせたけれども、この20歳の選手は、私はこの試合の主導権も、そして、肝っ玉も持っている。そして、私は、過去の勝利者に続いて1人の勝利者になるの！を実証した、と伊達選手は言っています。

“To play like that in her first Grand Slam final was just amazing,” Date told AFP.

大阪なおみ選手が、初めてのグランドスラムの決勝戦で、このようにプレイすることは、まさにアメージングだと 伊達選手はAFPに話しています。

“ To keep your cool like that , from the moment you step onto court to the last point, isn't easy,” added the former world No.4, who reached the semi finals at Wimbledon in 1996.

“If she continues to develop the way she has over the past two weeks and stays motivated, she go on to be Japan's first world No.1.

大阪選手が最後のポイントへとコートに向かう時から、このように冷静さを保っているって容易なことではない。と 1996年ウィンブルドンでの準決勝戦をした世界No.4の伊達選手は更に加えています。

もし、大阪選手がこの2週間で成し遂げたことを発展させ、気概を持ち続けられたならば、大阪選手は日本人で初めての世界No.1に向かっている。

この記事の最後の12行にも、締めくくりの伊達選手の言葉が載っています。

Date likened Osaka to China's Li Na, who retired in 2014 after winning the French and Australian Opens and reaching No.2 in the world.

伊達選手は、大阪選手を中国人のLi Na選手に例えています。Li Na選手はフランスとオーストラリアのオープン戦で優勝し、世界2位になった後に2014年に引退しています。

Osaka is taking on the power tennis of the women's game with power of her own---an Asian player, a Japanese player," said Date, who retired last year at the age 46.

大阪選手は、彼女の持ち前のパワーで女子のパワーテニスを戦っていける1人のアジア人選手であり、また日本人の選手なのです。と伊達選手は言っています。伊達選手は昨年46歳になりテニス界を引退しました。

"Until now only Li Na had the physique to be able to tackle that kind of power. You could tell Serena was wary of Osaka power."

今までは、このようなパワーテニスに立ち向かえる体格を持った人はLi Naだけだった。

そして、この記事の最後に、伊達公子選手は次の言葉で締めくくっています。セリーナ選手が大阪選手のパワーには油断ならないと感じているのを、皆が知っているのよ。

この記事の憎らしいほどのうまさでしょう。

大阪なおみ選手には、インタビューで試合中のことをあれこれと質問されています。大阪選手はそれに応えています。

But I'm not sure, about asked questions. For me...I think it's still a win. So I'm just going to count it as that. The penalties had not diminished her sense of accomplishment in winning the match.

私は、質問されたことについては知らないの。私にとっては、ただ勝つ事だけを思って試合に臨んだの。セレーナへのペナルティーで、1ゲームが私に与えられても、この試合を勝って、成し遂げるという気持ちを弱めることはなかったわ。

僕は 長年のテニスファンなのです。今の天皇陛下や美智子妃殿下のご成婚前やご成婚後の軽井沢テニスクラブでのテニスを楽しんでおられる写真を軽井沢の有名な写真屋さんで買って持っています。

更に、往年のテニススターが満載の田島正写真集 IMPACT も(1997年美研)。この本には、'96年 ウィンブルドンでの伊達選手とグラフ選手との熱戦も載っています。もし、あの時、日没試合でなければ、伊達選手に栄光があったかもしれない熱戦でした。覚えていますよ。往年のスターたちの名前とプレイをも。

サンpras・チャン・アガシ・ベッカー・マッケンロー・コナーズ・グラフ・サンチェス・セレス・サバティーニ・ナブラチロバ。

この選手たち、pastではなく still now なの。テニスファンはみんなそうなの！